

厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)  
分担研究報告書

医療従事者の研修

研究分担者 忽那賢志 国立国際医療研究センター国際感染症センター国際感染症対策室

研究要旨 本課題では大阪と東京で「一類感染症受け入れ体制整備研修会」を開催した。第一種感染症指定医療機関関係者など187名が参加し、レクチャーの受講や多施設間、多業種間での意見交換を行った。また、5日間の動物由来感染症講習会も開催した。さらに、2019クリミア・コンゴ出血熱などの新興・再興感染症の専門家育成のための厚生労働省一類感染症等予防・診断・治療研修の企画・引率を行った。

A. 研究目的

ウイルス性出血熱、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群などの新興再興感染症は日本国内では稀な感染症であり、十分な知識を持つ医療従事者は多いとは言えない。本研究の目的は、これらの新興再興感染症の診療に関わる可能性のある医療従事者に、感染対策や診断治療などの情報を提供し知識をアップデートすることで患者の発生に備えることである。

B. 研究方法

国内研修会の開催

全国の特定および第一種感染症指定医療機関に所属し、新興再興感染症の診療・感染対策に従事する者、および各都道府県で感染症行政に関わる職員を対象に、一類感染症の知識向上および疫学・診断・治療のアップデートを目的とした研修会を開催する。

一類感染症研修の企画・引率

新興再興感染症の専門家を育成するための海外研修を企画し引率する。

(倫理面への配慮)

本研究は協力施設の同意のもとで実施されており、患者および医療従事者に関する個人情報の取り扱いには発生しない。

C. 研究結果

国内研修会の開催

2019年度は11月8日に東京(国立国際医療研究センター)、2019年11月29日に大阪(りんくう総合医療センター)で「一類感染症受け入れ体制整備研修会」を開催した(研修会プログラムは別添)。

東京会場では病院に勤務する医師33名、衛生職1名、看護師28名、事務2名、臨床検査技師3名、保健師7名、薬剤師5名、合計79名が参加した。参加医療機関は以下の通りである：青森県立中央病院、大分県立病院、国立国際医療研究センター、自衛隊中央病院、静岡県立静岡病院、東京都保健医療公社 荏原病院、東京都立駒込病院、長野県立信州医療センター、名古屋第二赤十字病院、成田赤十字病院、新潟市民病院、福井県立病院、福島県立医科大学病院、松江赤十字病院、宮崎県立宮崎病院、りんくう総合医療センター、茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター、横浜市立市民病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、群馬大学医学部附属病院、埼玉医科大学病院、山形県立中央病院、山梨県立中央病院、自治医科大学附属病院、秋田大学医学部附属病院、盛岡市立病院、鳥取県立厚生病院、東京都立墨東病院、富山県立中央病院、防衛医科大学校病院

大阪会場では、病院に勤務する医師35名、獣医師3名、助産師1名、放射線技師3名、厚生労

働技官 1 名，看護師 36 名，事務 11 名，臨床検査技師 7 名，保健師 9 名，薬剤師 7 名，臨床工学技士 1 名，合計 114 名が参加した。参加医療機関は以下の通りである：石川県立中央病院，大阪市立総合医療センター，香川県立中央病院，岐阜赤十字病院，京都府立医科大学病院，神戸市立医療センター中央市民病院，国際医療福祉大学，国立国際医療研究センター，福岡東医療センター，堺市立総合医療センター，市立大津市民病院，市立札幌病院，東北大学病院，常滑市民病院，成田赤十字病院，兵庫県立加古川医療センター，山口県立総合医療センター，琉球大学医学部附属病院，りんくう総合医療センター，愛媛大学医学部附属病院，伊勢赤十字病院，熊本市立熊本市市民病院，佐賀県医療センター好生館，鹿児島大学病院，奈良県立医科大学附属病院日本赤十字社和歌山医療センター

また，2019 年 6 月 10 日～14 日まで，国立国際医療研究センター・国立感染症研究所を会場に動物由来感染症講習会を開催した。医師 11 名が参加した。

#### 一類感染症研修の企画・引率

厚生労働省は新興再興感染症の専門家育成のための「一類感染症研修」を定期的実施している。本研修の企画および引率を行った。

2019 年 6 月 30 日～7 月 6 日にトルコで実地研修を行った。事前にスケジュールを調整するために 4 月 15 日～18 日に研究代表者の加藤とともにアンカラの Ankara Yildirim Beyazit University を訪れ研修内容について調整を行った。実際の研修では，Ankara Yildirim Beyazit University，Ankara City Hospital，Ankara Eğitim Ve Araştırma Hastanesi を訪れ実際にクリミア・コンゴ出血熱患者の診察を行った。また日本とトルコの感染症の状況について情報交換を行った。また保健省にてクリミア・コンゴ出血熱症例の疫学情報の収集，国民への啓発について学び，ウイルス研究所にて研究室の見学を行った。本研修に参加したのは以下の医療機関からの医師である：東北大学病院総合感染症科，群馬大学医学部附属病院，都立駒込病院，大阪市立総合医療センター，沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

#### D. 考察

##### 国内研修会の開催

研修会には 2018 年度は計 165 名，2019 年度は計 187 名の受講生が参加した。特定または第一種感染症指定医療機関に従事する医療従事者（医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師など），保健所関係者，各都道府県の職員，検疫所の検疫官などが一同に会し，一類感染症の最新情報についてアップデートを行った。またこれらの一類感染症診療の関係者が日頃の疑問について討議し合う場は他になく，このような研修会によって都道府県と保健所，保健所と医療機関，検疫所と医療機関などの地域の連携が生まれることが期待される。

研修会の内容については，一類感染症を始めとした新興再興感染症のアップデートだけでなく，現在全国で問題となっている外国人診療の話題や，第一種感染症指定医療機関の立ち上げ，疑似症対応事例に関するテーマを盛り込んだ。外国人診療については，言語の問題だけでなく，文化への配慮や未収金問題への対応など，医療機関で外国人を診るに当たって留意すべき様々な事項について紹介された。

2018 年度の第一種感染症指定医療機関の立ち上げについては，西日本では香川県立中央病院および愛媛大学医学部附属病院，東日本では東北大学医学部附属病院および秋田大学医学部附属病院における立ち上げについて紹介が行われた。最新の第一種感染症指定医療機関の施設設備の状況や体制整備に関する問題点などの共有が行われ，参加者にとって有意義な内容であったと考えられる。また 2019 年度は，疑似症対応を行った医療機関の経験を共有する目的から実際の症例を紹介してもらい，課題について共有した。感染症指定医療機関の中には疑似症対応未経験の施設もあり，これらの経験を共有することは参加施設にとって大いに参考になったと考えられた。

##### 一類感染症研修の企画および引率

本研修は厚生労働省の主催によるものであるが，企画および運営については新興再興感染症の専門家が関わることを望ましいと考えられることから研究班が関わっている。

トルコでのクリミア・コンゴ出血熱については，ウイルス性出血熱の発生のない日本では診療

経験のある医師は皆無であり、実際の患者の診察が行えたことは参加した医師にとって大きな経験となった。またトルコにおけるクリミア・コンゴ出血熱のサーベイランスや啓発についても日本の感染症対策の参考となるものであった。ウイルス性出血熱は日本国内ではほとんど経験することのできない感染症であり、今後もトルコとの良好な関係を維持し、定期的にウイルス性出血熱の研修を継続することが望ましいと考える。

#### E. 結論

本課題では研修会の開催および e-learning 動画の公開を行った。研修会ではレクチャーの受講や多施設間、多業種間での意見交換を行い日本国内の新興再興感染症の情報共有に有用な場であった。一類感染症研修では日本で経験することができない新興再興感染症について学び、専門家を育

成することで国内での感染対策や啓発に寄与することができたと考えられる。

#### F. 健康危険情報

総括報告書にまとめて記載

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし